




事例のポイント

【P D C A サイクルの考えを取り入れた合理的配慮のプロセスの実際】

【平成 30 年度】

 をクリックすると、各事例を見ることができます。

ア 小学校知的障害特別支援学級（5年）の取組

知的障害特別支援学級に在籍する5年生の児童が、自分の思いや考えを伝えたり、実生活に生かせるような基礎的・基本的な知識や技能を身に付けたりすることができるように、特別支援学級担任が、体験したことや思ったこと等を表現する学習場面を設定したり、着替えや入浴等の生活習慣の形成に向けて学校と家庭が連携したりするなどの配慮を提供した事例である。

キーワード〈意思の表現〉〈実生活に必要な知識や技能〉

イ 中学校難聴特別支援学級（2年）の取組

難聴特別支援学級に在籍する2年生の対象生徒は、両側中等度感音性の難聴がある。高等学校に進学したいという願いを強くもっており、学習意欲は非常に高い。そこで、対象生徒が主体的に学習活動に参加することができるように、特別支援学級担任が交流学級担任等と連携しながら、交流学級の教室環境を整備したり学習内容や方法を工夫したりするなどの配慮を提供した事例である。

キーワード〈FM補聴システム〉〈きこえ〉〈支援体制〉〈職場体験学習〉

【平成 29 年度】

ア 小学校自閉症・情緒障害特別支援学級（1年）の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する小学校1年生の児童が、安心して学校生活を送ることができるように、特別支援学級担任が、対象児童に活動の見通しをもたせたり活動量を調整したりするなどの配慮を提供した事例である。

キーワード〈見通し〉〈感覚過敏〉〈道徳〉

イ 小学校自閉症・情緒障害特別支援学級（3年）の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する3年生の対象児童は、読み書きの困難さを抱えている。そこで、対象児童の読み書きへの負担を軽減するために、教科書の漢字に読み仮名を付けたり、ICT機器の読み上げ機能を活用したりするなどの配慮を提供した事例である。

キーワード〈読み書き〉〈ICT機器〉

ウ 中学校自閉症・情緒障害特別支援学級（1年）の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する1年生の対象生徒は、読み書きの困難さがあり、対人関係においても問題を抱えている。そこで、対象生徒が交流学級で安心して学習や活動に参加できるように、学習内容や方法を調整・変更し、心理的安定を図る配慮をした事例である。

キーワード〈小学校との連携〉〈情緒の安定〉〈理科〉

エ 中学校自閉症・情緒障害特別支援学級（3年）の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する3年生の対象生徒は、学習意欲は高いが交流学級では情緒が不安定になることがある。そこで、対象生徒が交流学級で安心して学校生活を送ることができるように、関係機関と連携したり、活動の見通しを持たせたりする配慮を提供した事例である。

キーワード〈学校行事〉〈関係機関との連携〉〈情緒の安定〉

【平成 28 年度】

ア 小学校通常学級（6年）の取組 

知的障害特別支援学級に在籍する小学校 6 年生の児童に対して、交流学級の担任が特別支援学級担任と連携を図りながら、合理的配慮を提供した事例である。対象児童生徒は学習意欲が高いが、学級全体に対する説明だけでは、説明の内容を理解することが難しい。そこで、交流学級における学習活動で充実感や達成感を味わわせることができるように、座席の配置や説明の仕方の工夫などの配慮をした。

キーワード〈交流及び共同学習〉〈外国語活動〉

イ 小学校自閉症・情緒障害特別支援学級（1年）の取組 

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する小学校 1 年生の児童に対して、対象児童が交流学級での学習活動に主体的に参加できるように、交流学級担任が特別支援学級担任と共に、教室環境を整備したり学習内容や方法を工夫したりするなどの配慮を行った事例である。

キーワード〈ICT機器〉〈生活科〉

ウ 小学校自閉症・情緒障害特別支援学級（3年）の取組 

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する小学校 3 年生の児童に対して、自閉症・情緒障害特別支援学級担任が、感覚過敏等の対象児童の実態を踏まえた合理的配慮を提供した事例である。対象児童は、感覚過敏があることや自分の体を支える力が弱いこと、活動の切り替えが難しいことがあるため、作業に時間が掛かる。また、多くの活動を求められると注意の持続が難しい様子が見られる。そこで、安心して学校生活を送ることができるように、学習面、生活面、行事等において、支援体制や施設設備を整えたり、主体的に学習し理解することができるように教材等を工夫したりした。

キーワード〈感覚過敏〉〈算数科〉

エ 中学校通常学級（1年）の取組 

通常の学級に在籍する中学校 1 年生の生徒に対して、通常学級担任が、落ち着いた学級づくりをしたり課題への取り組み方のルールを工夫したりした事例である。対象生徒は、書くことへの苦手さを抱えている。また、宿題が仕上がっていない等の不安な気持ちがある場合に、登校に不安を感じたり、学校生活の中で情緒不安定な状態に陥ったりすることがしばしばある。そこで、対象生徒が落ち着いて学校生活に取り組むことができるように、環境整備をしたり、学習内容や方法を調整・変更したりした。

キーワード〈書くこと〉〈学級活動〉

オ 中学校自閉症・情緒障害特別支援学級（1年）の取組 

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する中学校 1 年生の生徒に対して、特別支援学級担任が、学習面や生活面など学校の教育活動全体を通して合理的配慮を提供した事例である。対象生徒は、自閉スペクトラム症の診断があり、疲れやすい、騒がしいところが苦手、休み時間などの過ごし方が分からないなどの様子が見られる。そこで、対象生徒が落ち着いて学校生活が送れるように、教室環境の整備や休み時間の過ごし方、学習活動等について配慮した。

キーワード〈学校生活全体〉〈自立活動〉〈安心感〉

カ 中学校自閉症・情緒障害特別支援学級（2年）の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する中学校2年生の生徒に対して、特別支援学級担任が主に特別支援学級における学習活動で教育内容や方法を変更・調整したり、対象生徒の心理面に配慮したりした事例である。対象生徒は、体調等によって情緒が不安定になり、落ち着いて学校生活を送ることが難しくなることがある。また、書くことに苦手さを抱えている。そこで、心理的な安定を図りながら、集団参加を促すために、必要に応じて休憩を取り入れたり、書く量を軽減したりする等の配慮をした。

キーワード〈休憩の取り方〉〈活動への参加の仕方〉〈家庭科〉